



2020年10月30日
第51号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



申6号2020年度年末手当等に関する申し入れ 団体交渉がはじまりました!

業務部速報



No. 24

発行 20. 10. 30

JR東労組 業務部

申6号 2020年度年末手当等に関する申し入れ

第1回交渉開催！ 要求の趣旨説明を行いました！

- ・経済の先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。
- ・社会インフラとしての使命を全うすべく、健康管理に努め安全・安定輸送の提供かつ、安心の提供に向けて、今も尚奮闘している。
- ・鉄道営業収入は第1四半期で対前年比 34.1%が、第2四半期では 46.9%まで回復している。社員一人一人のたゆまぬ努力の結果として、コロナ禍においても収益を生み出している。
- ・変化への対応に対する組合員・社員の努力や労働の質が高まっていることへの評価、今後の努力等に対する投資が必要だ。
- ・JR東労組は、コロナ禍における社会の変化と決算の現実を認識し、組合員と危機感を共有し、安全を最大の価値基軸に据え、健全な経営基盤の構築を目指そうとする諸施策に対し、理解する努力を惜しまず向き合っている。
- ・あらゆる感染防止対策を行い安全性を訴え、黒字経営に向けた議論をつくり出し、この赤字・コロナ禍を乗り越えるべく真剣に議論し取り組んでいる。
- ・赤字・コロナ禍においても奮闘する組合員・社員の雇用と生活を守り、人材の流出を防ぐ観点からも今こそ「人」への積極的投資が必須だ。

JR 東日本グループで働く全組合員・社員のモチベーションを維持・向上させる観点からも、要求満額回答を強く求める！

本部に寄せられている 職場からの声

「経営の厳しい現実もあるが私たちの生活もある」
「今も変わらず安全・安定輸送と安心の提供に向けて奮闘している」
「転職している社員や転職を考えている社員がいる事に不安視している」
「夏季手当の低額であったことも踏まえて年間では安定した水準を確保すべき」
「交渉前にボーナスカットを報道されモチベーションが下がった」
「業績が好調の時も先行きが不透明と支給が抑えられてきた」
「このような状況下だからこそ社員の期待に応えてほしい」 など

会社の現状認識

- ・社員のみなさんに対して、コロナ禍でも不安と緊張の中、感染症対策を取りながら日々安全の確保・安心の提供へ尽力いただいていることに感謝申し上げます。
- ・第2四半期として初めて大幅な赤字を計上するという非常に厳しい決算。9月16日に発表した業績予測も通期でも初めての大幅な赤字となる見込み。
- ・経済動向もコロナの影響は出ており、4~6月の実質 GDP の成長率は年率でマイナス 28.1%、8月の完全失業率は3%台となる厳しい状況。
- ・テレワークや e コマースなど移動を伴わない働き方、暮らし方が急速に普及するなど「変革 2027」で予測した 10 年先の未来が前倒しで現れている。コロナ前の世界には戻ることはない。
- ・コロナでの変化は短期的には打撃となるが、チャンスと捉えて「変革 2027」のスピードアップとレベルアップ、大胆な構造改革を実施していく必要がある。
- ・会社の継続的な発展こそが社員還元のためさらなる充実、働きがいの向上、社員・家族の幸福実現に繋がっていくことを前提に、厳しい経営環境や課題について認識を共有させることが重要。
- ・コロナ前に戻らないことを念頭に、収入確保、コスト削減への一層の努力が不可欠。
- ・7期連続で行った基本給改定、キャリア加算、各種手当て見直しなどを考慮しながら総合的に判断していく必要があると考える。
- ・高い公共性を有した企業であるので、世の中の状況にも留意するべきである。

要求満額獲得に向けて鋭意団体交渉を行っていきます！

職場で活発な議論を行い、私たちの雇用と生活を
守るために本部と共に交渉をつくっていくぞう！